

令和5年度 学校総合評価

富山県立呉羽高等学校

◎ 今年度の重点課題に対する総合評価

本校では、「調和のとれた豊かな人間性を有し、力強く道を切り開く社会に有為な人物」を育成することを目指して教育活動を推進している。今年度は、具体的方策として6項目12の達成目標を定めて取り組み、概ね目標は達成した。一方で、学習、生徒指導、特別活動等で課題も残った。

「学習活動」については、生徒一人一人の学びに寄り添う個人面談などが学校評議員にも評価されたが、主体的学びの根幹である自学自習のための家庭学習時間の確保は目標を達成できなかった。一方授業改善のための互見授業は以前より活発に実施されており授業展開の手法と課題等を共有できた。ICTを活用した授業研究、教材開発への意識をさらに高め、授業の充実を図りたい。

「生徒指導」については、生徒会校紀委員会の自主的な取り組み等もあり、挨拶や服装では十分目標を達成した。一方、スマートフォンに関するHRの実施は目標に達しなかった。学習時間、生徒指導上の問題等多方面と係わる問題であることから、継続的に働きかけ自ら考えさせていく必要がある。

「進路指導」については、3年間を見通した計画的な進路指導によって概ね目標を達成した。今後は、学習への内発的動機付けとなるような、さらに積極的な進路指導を目指したい。

「特別活動」については、各種行事をほぼコロナ禍前の形で実施することができ、生徒は委員会活動等にも意欲的に参加した。一方、さまざまな活動を広報し、生徒全体に周知して共有することは不十分だったため、学校全体が一層盛り上がるよう方策を工夫したい。また、ホームルーム活動での話し合いなど、身近な事柄について自ら考え、他者と意見を共有する機会を設け、価値観の形成や協働的スキルの向上を図る機会を増やしたい。

「図書館活動」については、定期的な図書館だよりの発行やビブリオバトルの実施などにより利用者数は目標に達し、活発に活動することができた。

「PTA活動」は、コロナ禍以前の活動の実施や各種行事の集合型での開催など、学校とPTAと連携しながら充実した活動を行うことができ、参加者の満足度も高かった。

「校内美化」は、学習環境を快適に保つために美化委員を中心に清掃活動を実施した。

◎ 次年度へ向けての課題と方策

生徒が主体的に学び、他者と協働しながら心身とも健やかに学校生活を送り、高い志をもって進路選択できるよう支援していかなければならない。学習面では、教務、生徒指導、特別活動が連携し、基本的な生活習慣について自ら考え、実践する力を養うとともに、進路指導や学年が連携し、内発的動機付けによる主体性の醸成を図る必要がある。また、学校行事、委員会活動などを通して、協働的スキルや社会の一員としての規範意識を培い、さらに読書活動などを通し、良識や優れた知性を涵養したい。これらのことに各分野を超えて包括的に取り組むとともに、教職員のみならずPTAや地域と連携して取り組んでいかなければならない。

令和5年度 呉羽高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動（学習指導の充実）	
重点課題	家庭学習の充実と教科指導の充実	
現状	<p>①本校生徒の進路目標達成のためには、日々の授業を大切にし、生徒が計画性をもって生活時間を調整しながら学習に取り組み続けることが必要であるが、各学年の目標とする家庭学習時間は確保されていないのが実状である。生徒の実態把握に努め、生徒が主体的にかつ具体的に学習計画を立てて実践できるようになるための指導が必要である。</p> <p>②「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の改善について、互見授業を活用し、各教科部会を中心に研修している。互いの授業を参観する機会は増えているが、ICTの効果的な利用も含め、指導内容や指導方法についてさらなる授業研究が必要である。</p>	
達成目標	<p>①生徒の平日家庭学習時間 1年生 2.0時間以上 2年生 2.5時間以上 3年生 3.0時間以上 ※学習実態調査より</p>	<p>②互見授業に積極的に参加し、教科部会等で意見交換をする。</p>
	<p>① 70%以上</p>	<p>② 各自、互見授業に年間2回以上参加</p>
方策	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での生活実態を記録させ、予習・授業・復習のサイクルを確立するためにはどのような時間の使い方をしなければならないかを、生徒自身に考えさせる。 授業や考査・レポート等により学習状況や学習到達度を把握し、適切な課題を設定して生徒の意欲を引き出す。 個人面接を重視し、生徒一人ひとりに合った学習方法を工夫させるとともに学習時間増加推進に取り組みせ、進路目標の達成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 互見授業週間を設定し、様々な授業を見学できるように、教科の枠を外して実施する。 互見授業後の振り返りや、学校外で行われる研修会や公開授業への参加報告など、授業改善のための校内研修を実施する。 ICTの授業への活用については、その長所・短所を把握し、さらに効果的な利用法について研究を進める。 教育クラウドを活用した教育活動の推進を図る。
達成度	<p>①1年 1学期：68.0% 2学期：48.0% 2年 1学期：19.8% 2学期：20.3% 3年 1学期：17.1% 2学期：56.2%</p>	<p>② 80.4%（平均見学回数 4.0回）</p>
具体的な取組状況	<p>①学習意欲の喚起を目指し、担任や学年主任による面接、放課後等の質問教室、昼食時の質問教室・自習場所の確保、英語や数学のコンクール等を行った。</p>	<p>②互見授業期間中は、どの教科でも、短い時間であっても自由に見学できるようにした。各教科で協議会を実施し、情報共有・課題解決に努めた。</p>
評価	<p>① C 学習場所が家庭とは限らないが、予習・復習、弱点補強や応用力養成を考慮すると、「自学自習」のための学習時間の確保は必須である。</p>	<p>② B 生徒の活動の様子や教師の授業の進め方を見学することは、自らの授業のありかたを考え直す機会になり、有意義であった。</p>
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 個人面接を重視している点がよい。 学習時間の目標達成度が低いのが残念である。学校は自学自習に適した場所であるので、休日や放課後など積極的に開放してほしい。 多くの教員が互見授業に参加している点が評価できる。 	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 学習場所の多様化にあわせ、学習実態の調査方法を再検討する。 互見授業を契機に教科部会を開き、情報ツールの活用法や授業の工夫等について、情報交換を活発に行うよう、促していきたい。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和5年度 呉羽高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活（生徒指導）	
重点課題	①「挨拶」を自主的に行い、自覚を持って「服装」を正しく着用する生徒の育成。 ②スマートフォン・携帯電話について、節度のある使用が自主的にできる生徒の育成。	
現状	①ここ数年継続して、「挨拶」と「服装」に重点を置いて指導してきた結果、生徒たちの挨拶は少しずつ良くなってきた。また、制服については、昨年度から、生徒が各自の体調や気温にあわせて冬服・合服・夏服を選んで着用する「制服選択着用期間」を設け、生徒の自主性を育む指導を行っている。 ②富山県高等学校PTA連合会では、イレブン・セブン運動（夜11時から翌朝7時までスマートフォン等を使用しない運動）を展開している。本校でも新入生に案内を配布し、全校集会等で指導しているが、様々なコミュニケーションツールの進歩により、夜遅くまでスマートフォンを手放せない生徒が多い。また、学習にスマートフォン等を利用する生徒も増えており、使用禁止だけの指導は難しくなっている。どのように使うのかを考えさせる指導が必要になってきている。	
達成目標	① 生徒の自己評価（5：いつもきちんとできる、4：だいたいいつでもできる）の割合	② スマートフォン・携帯電話の使用に関する統一HR等の実施
	・【挨拶】「授業」80%以上、「校内」80%以上 ・【服装】85%以上	・各学年1回以上
方策	・校規委員会の活動を充実させ、学校生活や諸活動に対する生徒の意欲を喚起し、規範意識を育む。 ・朝の生徒玄関での挨拶や、学校全体で行う学期始めの「挨拶・マナーアップ週間」での声かけなどを通し、「挨拶」や「服装」への継続的な指導を行う。 ・各学期に服装指導を実施することで、生徒自身が身だしなみについて考える機会を持たせるとともに、落ち着いた学習環境を維持することに努める。 ・必要に応じて、個々の生徒の状況に応じた個別指導を担任と連携して行う。	・生徒のスマートフォン・携帯電話の使用状況について調査を行う。使用時間や使用の仕方等の使用実態について自覚させるとともに、HR活動で結果について話し合い、改善点や改善方法について考えさせる。 ・1年生に「スマホ・ケータイ安全教室」を実施し、SNS使用の危険性について、専門家の講話を通して指導する。 ・教科「情報」の教員と協力し、情報モラルやセキュリティの意識の向上を図る。
達成度	挨拶の自己評価 1学期 ・授業 80% ・校内 86% 服装の自己評価 89%	2学期 85% 86% 92%
具体的な取組状況	・各学期始めの1週間を「挨拶・マナーアップ週間」とし、登校時の生徒への声かけなど全教職員で指導にあたった。また、6月の「さわやか運動」期間中には校紀委員と教職員、保護者が協力して挨拶運動を行った。 ・年度当初に全校集会や職員会議で、制服の着こなしパターンを明示し、生徒と教職員への共通理解を図った。 ・「制服選択着用」についての来年度へ向けての様々な意見を集める機会とするため、校紀委員会を中心に全校生徒へアンケートを実施した。	・全校集会や学年集会で、スマートフォン使用ルールについて確認し、節度ある使用を心がけるよう指導した。 ・1年生の新入生オリエンテーションで外部講師を招聘し、スマホ・ケータイ安全教室を実施した。 ・生徒のスマートフォン使用状況について、今年度はICT(google クラスルーム)を活用し、調査した。実態を把握するとともに、生徒自身が使用時間・方法の改善について振り返る機会にもなった。
評価	① A：挨拶・服装ともに達成目標を上回った。 ② C：使用状況調査は全学年実施することができたが、統一HRは1学年のみでの実施となった。スマートフォン使用については、家庭での学習や睡眠時間の確保のためにも、生徒が主体的に管理できる態度の育成が望ましい。	
学校評議員の意見	・「制服選択着用期間」の設定は良い取り組みである。自主的に制服を正しく着用したいと思わせるような仕掛けを考えてみてはどうか。挨拶については、校内だけでなく地域においてもしてほしい。 ・スマホについては、SNS使用による危険性を訴える機会を設けるとよい。	
次年度に向けての課題	・マナー、ルールに則った着こなしやスマートフォンの使用については、今後も継続して指導していくことが必要である。 ・今年度実施できなかった「スマートフォン・携帯電話の使用に関する統一HR」の実施に向け、内容や方法などについて検討する。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和5年度 呉羽高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路指導の充実）
重点課題	進路意識を高め、進路目標の実現に向けて学力を向上させる。
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標が漠然としているために、受動的な学習に終始する生徒が多い。 ・自己の能力や適性を的確に評価しようとする意識を高め、主体的かつ持続的に考えながら進路目標を設定し、その実現に向けて努力していきけるよう、継続的に支援していく方策を工夫する必要がある。 ・目標の設定や実現のための方策を示し、学期や学年の進行とともに進路意識を熟成させられるような支援システムを構築し、教員間で共有していく必要がある。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年：文理選択・科目選択を、十分検討した上で決めることができる。 ・第2学年：具体的な進路目標を、十分検討した上で定めることができる。 ・第3学年：受験計画を、十分検討した上で立てることができる。
	1年生：80%以上 2年生：80%以上 3年生：80%以上
方策	<p>○3年間を通した計画的な進路指導を行い、生徒・学校・家庭が一体となり進路志望の実現を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年…生活習慣や学習習慣を確立させる。「総合的な探究の時間」等で進路研究や興味関心に応じた探究活動を行い、自己理解や適性の把握に努めさせる。また、適切な文理選択を支援するため、漠然とした進路希望を持つ生徒や、進路選択に悩む生徒が自己の適性を知り、自分の将来について主体的に考えられるような機会を設ける。「大学招請講義」では興味関心のある講義を受講させ、学部・学科の内容についての理解を深めさせる。 ・第2学年…大学見学等を通して大学や学部について研究し、自己の適性をふまえた具体的な進路目標が掲げられるよう指導する。「大学招請講義」では興味関心のある講義を実際に受講し、学部・学科選択の一助とさせる。また、「合格体験報告会」では先輩達の進路への心構えや学習法などを実際に聞き、新年度に向けて学習への意欲を高めさせる。 ・第3学年…学年集会や外部講師による進路講演会等を開催し、進路志望実現のための具体的な方策や進路に関する情報を的確に示し、意欲を高めさせる。ゴールを見据えた長期・中期・短期の学習計画を作成させ、その進捗状況を検証し、学力を最大限に伸長させる。 <p>○個人面接やホームルーム等を通して、学習習慣や生活習慣の見直しをさせるとともに、早期に志望校を明確化できるようオープンキャンパスや学校説明会への参加を勧める。</p> <p>○校内模試や外部模試を有効に活用し、結果を学年会や進路検討会で分析しながら教員間で情報を共有し、授業や個別指導（教科添削・小論文・面接）に活かす。</p> <p>○入試動向を調査し、それらをもとに本人の適性や成績・意欲などを総合的に勘案し、適切な志望校選択を支援する。</p>
達成度	<p>《達成目標アンケート（1月実施）》</p> <p>①十分にできた ②だいたいできた ③あまりできなかった ④全くできなかった</p> <p>1年生… ① 67.7% ② 26.7% ③ 1.8% ④ 3.7% ①② 合計… 94.4%</p> <p>2年生… ① 30.2% ② 49.8% ③ 16.7% ④ 3.3% ①② 合計… 80.0%</p> <p>3年生… ① 27.9% ② 51.0% ③ 18.8% ④ 2.4% ①② 合計… 78.9%</p>
具体的な取組状況	<p>○個人面接（全学年）：各担任が時期を的確に捉えて実施し、生徒の学校生活を支援するとともに進路目標を明確化するよう促した。○総合的な探究の時間：（1学年）学問研究・職業研究を計画的に進め、主体的な文理選択をサポートした。（全学年）興味関心に応じた探究活動を行った。また随時、外部講師による指導を実施した。○招請講義（1・2学年）：県内外の大学から講師を招聘し、専門的な学問に触れることで志望分野への興味・関心を高めた。</p> <p>○インターンシップ（全学年）：県内の諸団体や大学・企業・医療現場等へのインターンシップへの参加を促した。</p> <p>○進路講演会・小論文講座・学年集会・HR等（全学年）：校内テストや外部模試の振り返り、学習実態調査での現状把握等をもとに、改善点を考えさせた。○オープンキャンパス参加（1・2・3学年）：具体的な学生生活をイメージし、大学への適応度を確認するために参加を促した。</p>
評価	B：各学年の達成目標は学校全体で認識されており、その達成に向けての努力がなされていた。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の立場に立って指導しており、目標もほぼ達成されている。 ・生徒たちが希望する講師を招くなど、生徒が関心をもって能動的に進路意識を高める機会をつくとよい。
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分の興味や関心を追究するための調査等を行う機会を設ける。 ・招請講義については体験的な活動を取り入れて大学での講義を具体的に思い描けるようにする。 ・オープンキャンパスなど進路情報の発信のあり方について検討する。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和5年度 呉羽高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動（学校行事の周知と委員会活動の活性化）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の広報活動を充実させ、各行事の活動内容を学校内外に発信するために、生徒会が中心となり、生徒や教職員との協力・連携を強める。 各行事や各種委員会活動への積極的な参加を促すとともに、活動内容を工夫し活性化を図る。 	
現状	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事では生徒会が中心的な役割を果たし様々な計画や運営をしている。しかし、一般生徒や教職員にはその活動内容が十分には知られていない。そこで、広報活動のみならず話し合いの場を積極的に設けることによって、生徒の主体的な活動を学校内外に知らせ、地域と学校、生徒と教職員が連携する活気溢れる行事を運営できるのではないかと考える。また、生徒に責任と自覚を持たせることによって、興味・関心をより高め、主体的な活動に繋げられると考える。 生徒会には現在8つの委員会が設置され、執行部が中心となって学校行事や各種委員会の様々な活動を計画・運営している。また、各ホームにおいても役員、各委員が企画する活動があり、主体的に取り組んでいる。しかし、慣例的な活動の中には、あまり関心が高くないように感じられるものもあり、今後、社会の状況に合わせつつも、より積極的な参加や自主的な行動を促す工夫した取り組みが必要であると考える。 	
達成目標	①学校行事の定期的な広報活動	②学校行事や生徒会、HR活動に意欲的に取り組み、充足感を得させる。
方策	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒会だより」 毎月発行 学校行事だけでなく、各委員会や生徒会活動の活動報告や告知を分かりやすく記載し、内容を充実させる。 掲示板 多くの生徒の目にふれるよう創意工夫を凝らした内容に努める。 HPの定期的な更新 	<ul style="list-style-type: none"> 参加意識を高めるために具体的な計画を立て生徒議会や生徒総会を通して生徒主体の形で共通理解を図る。 HR活動に話し合いやグループワーク、学年統一活動などを建設的に取り入れ、生徒の自主性を生かした運営を重視し、指導する。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒会だより」は月末を目安に全生徒に毎月発行したが、「たまに読む」を含め約4割が目を通してしていると回答している。 【1学年：37% 2学年：41% 3学年：43%】 HPは、行事ごとに適宜更新している。 	<ul style="list-style-type: none"> HR役員、委員会活動に積極的に取り組んだ生徒の割合（*やや積極的を含む） 1年 R3：97% →R4：94% →R5：96% 2年 R3：97% →R4：94% →R5：97% 3年 R3：94% →R4：94% →R5：97% 例年通り全学年で9割を超えてはいる。しかし、コロナ禍明けで、学校生活・各種行事(体育大会・芸術祭・球技大会等)の制限が緩和されたことで、積極的に活動に取り組む生徒は昨年よりも増加傾向にある。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事だけではなく、各部活動の活動内容や生徒会が中心となって行ったアンケートの結果報告を生徒会だよりだけではなく掲示板を通して適宜行った。（情報の共有） 各種委員会では、生徒議会での代議員からの意見や公約を基に委員長を中心に、スマホ使用についての呼びかけ、あいさつ運動など様々な活動を実施し、生徒会だよりやHPにも掲載して周知した。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動を行う時間がなかなか取れないことが浮き彫りになった。身近な事柄について考え、意見を共有する活動の実施回数を次年度はもっと上げていきたい。
評価	<ul style="list-style-type: none"> C 全校生徒に様々な活動の進捗状況をより周知できるよう工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> A 改善点はあるが、コロナ禍明けの活動として現時点で出来ることをほぼ行えた。
学校評議員意見	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒会だより」に目を通している生徒が半数以下なのが残念だが、掲示板やHPを活用し周知に工夫している点が評価できる。 HR役員、委員会活動に積極的に取り組んだ生徒の割合が高く評価できる。「身近な事柄について考え、意見を共有する活動」の増加に期待したい。 	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体に行事のみならず、各部活動の活動、各種委員会の活動、生徒会の活動を周知徹底することの難しさがあった。次年度は校内放送なども使用して、生徒が自分たちで意識して学校行事を作り上げていく雰囲気を作り出したい。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和5年度 呉羽高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	特別活動（図書館活動の充実）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 読書指導を通して生徒の自主的な読書活動を支援し、豊かな心と感性、知性を育む。 「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を強化し、自ら課題を発見し、解決する、探究的な学習活動をしやすい図書館づくりを推し進める。 本校の特色にあわせて、計画的に蔵書、資料構成をし、キャリア形成の一助とする。 	
現状	<ul style="list-style-type: none"> 読書傾向調査の結果、読書が「好き・どちらかといえば好き」な生徒は71%程度いるものの、1週間の読書時間が0分と答える生徒が51%おり、読書習慣のない生徒が多くなっている。読書をしなない理由として、「読書の習慣がない」、「勉強・部活動等で時間がない」をあげている。 年10回以上図書館を利用する生徒の割合は約12%であるが、40回以上利用する生徒もおり、利用状況に個人差がある。日常的に図書館を利用し、図書資料を適切に活用しようとする態度が求められる。 スマホやパソコン等電子書籍による読書をする生徒は微増し、24%である。 図書館を、教室以外の居場所として利用する生徒もいる。 <p>※数値は令和5年1月実施「読書傾向調査」（1、2年対象）による。</p>	
達成目標	①図書館だより、新着図書案内の発行回数 年10回	②1ヶ月平均の図書館入館者数（延べ人数） 550人以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> 月刊図書館だより「Library」や掲示物を年10回程度定期的に発行し、新着図書案内や情報提供を行う。 図書委員会が企画、運営する図書館行事により、また、本のポップの作成や展示により、読書の楽しさや図書館の親しみやすさをアピールする。 読書センターとしての機能を充実する。 1、2年生には、ホームルームの時間を利用して、生徒同士が読書体験を共有したり、ポर्टフォリオを作成したりする機会を設ける。 (1)読書の時間 「社会を知るための読書」をテーマとして、新書を読む。 (2)ホームルーム読書会（ビブリオバトル） 生徒同士で本の魅力を伝え合い、読書体験を共有する。 (3)校内読書感想文、感想画コンクール 入賞作品を図書館誌に掲載し、鑑賞する。 3年生には、「小論文対策図書案内」を作成し、進路支援を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新入生には、図書館オリエンテーションで、本の探し方や利用の方法を周知し、親しみやすい図書館であることを体感させる。 新着図書や授業に関連する資料を目に留まるように展示したり、配架を工夫したりして、利用しやすく、居心地のよい環境を整える。 学習センター、情報センターとしての機能の充実を模索する。 (1) 蔵書の選定と資料収集、レファレンスサービスを充実させ、生徒の自主的な読書や探究学習等の活動を支援する。 (2) 進路や職業選択に役立つ図書資料の充実に努める。 (3) 教科、学年、分掌、部活動など、教員も利用しやすい図書館づくりを進める。 (4) 新聞、雑誌、視聴覚資料にも幅広く触れる機会を提供する。 (5) 音楽等芸術関係の資料の提供と活用の促進を図る。 (6) Wi-Fi環境下で、ICTを活用した学習活動の利便性を高める。
達成度	① 図書館だより11回、新着図書案内11回（見込み）	② 551人（1月10日現在）
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> 月刊図書館だより「Library」で、図書委員や教職員のおすすめの本を紹介して、本への親しみやすさを感じられるようにしている。 新着図書は目にとまりやすいように館内入口に展示し、スライドショーでも情報提供をしている。 1、2年生は、1、2学期の朝読書や読書の時間では、社会を知ることやをねらいとして、生徒にさまざまなジャンルの新書50冊を推薦し、各自関心をもった一冊を選択して読み、読後記録に残し、一年間の読書の記録を作成している。 3学期ホームルーム読書会では、図書委員が運営するビブリオバトルに取り組んでいる。生徒間でおすすめの本をプレゼンし合い、読書体験を分かち合う場となっている。 読書傾向調査をして、本校生の読書傾向の把握に努め、効果的な読書指導と図書館経営に役立っている。 年刊図書館誌「わかば」では、校内読書感想文・感想画コンクールの受賞作や、図書委員会の活動を紹介します、さまざまな図書館活動を記録に残している。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月、新入生オリエンテーションでは、図書館の利用の仕方をガイダンスし、安心して利用できる館内の雰囲気を体感させている。 7月、図書委員会主催の教養講座では、日ごろ接することの少ない話題をテーマに解説や資料を見聞きし、新しい視点を持つことができた。館内には関連図書を紹介し、講座の内容をより深められるようにしている。 10月の全国読書週間には「図書館フェア」を催している。図書委員による探究的な活動の発表展示、ポスターセッション、関連動画の再生、クイズなど「楽しい図書館」を発信している。 芸術や進路の資料や専門図書をはじめ、生徒と教職員のニーズに応じた蔵書の充実を計画的に進めている。図書委員は店頭選書を通して、配架やポップの利用方法を見聞きし、魅力的な図書館づくりの参考にしている。 Wi-Fi環境が整い、図書館でのICTを活用した、教科や総合的な探究の時間の授業の在り方を模索している。
評価	<p>① A：図書館のPRにより、読書センターとしての図書館機能の一部を発信することができた。</p> <p>② B：生徒が安心して利用できる図書館づくりを計画的に推し進めてきたが、社会情勢に即応して、読書や学習活動、教育活動全般における図書館機能の可能性を引き続き模索していく必要がある。</p>	
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 図書館指導の充実について、目標が達成されている。 図書館でのICTを活用した教科や探究活動の授業のあり方について、さらに模索してほしい。 	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な読書活動推進の方策を創造する。 教科や探究的な活動の展開に資する図書館機能の充実を図る。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和5年度 呉羽高等学校アクションプラン - 6 -

重点項目	学校生活その他（保護者・生徒・教職員・地域との連携、校内美化・快適な学習環境の保持）										
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 本校教育活動とPTA活動の連携を図るとともに地域の声を聞き開かれた学校づくりに努める。 魅力ある本校の教育活動を、様々な方にアピールできるよう、様々な媒体を用い広報する。 校内美化に取り組み、健康的で快適な学習環境を保つことで生徒の学習や学校生活に対するモチベーションを向上させる。また、学校全体で協力して清掃活動に取り組み、生徒同士の助け合いや協働の精神を持たせる。 悩みを抱える生徒に対し、多面的に支援する。 										
現状	<ul style="list-style-type: none"> 学校と保護者との関係は良好であるが、コロナ禍で行事の開催や持ち方に制限があり、保護者が参加できていない。 SPTA懇談会は年2回開催しているが、呉高芸術祭の食堂運営については3年間行っておらず、懇談できていない。生徒の生活実態等については、生徒・保護者・教職員が意見交換を行う有意義な機会となっている。 ここ数年、ホームページへの行事の掲載率は7割程度で、掲載が遅れたり、更新が滞っていたりするものもある。保護者や中学生、地域の方から迅速かつ頻繁な更新を望む声が聞かれる。 週に3日は7限授業後に清掃時間（16時10分～16時30分）が設定され、その後部活動を行う校時となっているため生徒は時間に追われ環境美化に十分に取り組むことができていない。 悩みを抱える生徒に対し、担任・学年がケアに当たるとともに、コーディネーターが中心となってカウンセラーや外部機関等へつなぐなど校内・校外連携を強化し、多面的に支援する。 										
達成目標	①PTA行事の集合型での開催。学校行事への保護者の来校やそれに対する満足度の向上。	②学校行事等のHPへの掲載を、概ね2週間以内に行い、タイムリーな広報に努める。	③学期に2度の大掃除を計画し、実施する。								
	・開催時の満足度調査で4以上（5段階評価）	・学校行事の概ね2週間以内の更新率80%以上	重点目標を定め、生徒全員が活動に参加する。								
方策	<ul style="list-style-type: none"> PTA活動のパンフレットやホームページ等を通して各行事の様子を知らせ、保護者の参加意欲を促す。 参加した保護者を対象にアンケートを実施し、満足度を調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ掲載する予定の学校行事を全職員に伝える。 学校行事の担当者へ事前事後の更新を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内美化の活動を生徒全員で協力して行うことができるよう美化委員が啓発活動を行う。また、快適な校内環境を保つため、毎日の校内美化活動や普段の清掃では手が回らない場所、汚れが蓄積する場所等の特別清掃を随時計画し実施する。 								
達成度	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>満足度(出席率)</td> </tr> <tr> <td>・PTA総会</td> <td>3.6 (36.3%)</td> </tr> <tr> <td>・PTA講演会</td> <td>4.5 (23.6%)</td> </tr> <tr> <td>・PTA役員行事</td> <td>4.4 (83.0%)</td> </tr> </table>		満足度(出席率)	・PTA総会	3.6 (36.3%)	・PTA講演会	4.5 (23.6%)	・PTA役員行事	4.4 (83.0%)	<ul style="list-style-type: none"> 掲載を予定していた学校行事の掲載率は、95.6%であった。 2週間以内の更新率は81.8%であった。 	1学期4回、2学期6回、重点項目を決めて大掃除を実施した(美化委員による大掃除を含む)。
	満足度(出席率)										
・PTA総会	3.6 (36.3%)										
・PTA講演会	4.5 (23.6%)										
・PTA役員行事	4.4 (83.0%)										
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 行事の案内・出欠票の回収について各学年と連携した。 PTA講演会は、子どもの話を「聴く」ことをテーマに講演をいただき、例年より多い158名の参加があった。 学校保健委員会では、コロナが5類に移行後のマスクの着用や手洗いをテーマとし、好評であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事については担当者への写真撮影と記事作成を依頼し、掲載を促した。 年度当初の予定にかかわらず、行事の告知や結果については随時掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒全員による大掃除1学期3回、2学期5回 美化委員がポスターや放送による啓発活動を行った。 ○美化委員による大掃除1学期1回、2学期1回 溝掃除、外窓・内窓の蜘蛛の巣取りなど汚れが蓄積する場所の特別清掃を行った。 								
評価	B	B	A								
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> PTA活動については、今年度はさまざまなことを行うことができ、満足度も高い。 学校行事のHPへの掲載については、こまめに行われているようだが、偏りも見られるのでどの行事も広く掲載したほうがよい。 環境整備は大切なのでしっかり行ってほしい。 										
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 今年度同様、さまざまなPTA活動を行いたい。 多くの職員の協力を仰ぎ、生徒のさまざまな活動をHPへ掲載したい。 さわやか運動2日目に実施するクリーンアップ作戦について、悪天候・雨天時でも実施可能な校内及び地域美化活動の方法について検討する。 										

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった)